

秋田県の地域医療構想を指向した新たな医療モデルの開発

研究キーワード

へき地、マイクロサンプリング、治療薬物モニタリング、人工知能、副作用

研究概要

超高齢社会において、病院への移動が困難な患者が増加している一方で、へき地における医師不足が大きな課題となっています。その解決策として、遠隔医療をはじめ、患者の居住地における新たな医療モデルの開発が求められており、バイタルサイン/生体情報モニタリングのテクノロジー、ビッグデータと人工知能を活用した個別化医療、医療情報の「見える化」と「医療施設間連携」の推進などが不可欠となります。そこで、生体試料のマイクロサンプリング技術と液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法（LC-MS/MS）を用いた治療薬物モニタリング、人工知能を用いた個別化投与設計、オンライン情報共有システムを用いた副作用の早期発見・早期対応など、へき地における新たな医療モデルの開発を目指しています。

SA学生さんへのアピールポイント

- 地域医療における多職種連携について、身近に感じることができます。
- 様々な生体物質や薬物を定量し、疾患の診断や薬物療法の有効性・安全性に関連するバイオマーカーを研究することができます。
- 医療データベースなどを用いて、医薬品の新たな副作用シグナル検出手法を習得できます。
- 学会や論文で研究成果を発表し、秋田県から新たな医療モデルを発信していきましょう。

